

団体名	福岡市	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	グローバル人材育成・定着促進事業		意識啓発・地域づくり

グローバル人材育成・定着促進事業

特徴 多くの優秀な留学生在が学んでいるという福岡市の特性を生かし、産学官が一体となって、留学生の地元企業への就職と地元定着を促進することで、留学生と地元企業が主役となった「多文化共生のまちづくり」を目指していく。

事業のポイント

- ◇留学生の育成と、活用・定着を推進する産学官連携の枠組を設立。市内大学・経済団体・行政等 16 団体で構成。
- ◇留学生の地元企業への就職を通じた福岡への定着を促進するイベントを開催。
- ◇留学生の地元企業への就職を促進することで、地方の活性化と、地方創生で謳われている、地域における魅力ある多様な就業機会の創出へとつなげる。

事業の背景・目的

- ◇福岡市内の大学・大学院には、多くの優秀な留学生在が学んでいるが、地元企業への就職を希望してもそれが叶わず、卒業後、他都市や海外への流出や時間切れによる帰国を余儀なくされている状況にある。
- ◇本事業では、福岡市が主導で、産学官が一体となって留学生を取り巻く課題を共有し、課題解決に向けた取組みを強化するなど、福岡ゆかりの「産学官のネットワーク」を活用しながら、留学生を育成し、地元企業への就職、そして、地元定着へとつなげることで、「多文化共生のまちづくり」へつなげていくもの。

事業の概要

1. 「グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム」の設立
留学生をグローバル人材として育成し、活用・定着を推進していくための産学官連携の枠組。市内 8 大学、5 経済団体、行政機関等の計 16 団体で構成。
2. 地元企業と留学生を対象としたイベント「NEEDs & SEEDs～外国人留学生×地元企業～」の開催
 - (1)開催日時 平成 28 年 12 月 18 日(日) 13:00～18:00
 - (2)会場 アクロス福岡 6 階・7 階(福岡市中央区天神 1-1-1)
 - (3)参加者数 留学生 52 名 地元企業 25 社 42 名 計 94 名
 - (4)イベントプログラム
 - ①留学生向け就職準備セミナー
 - 講演Ⅰ 福岡で就職した元留学生からの体験談
 - 講演Ⅱ 留学生の就職支援に携わる企業関係者から、日本での就職活動の現状や企業文化について講演
 - ②留学生採用に向けた地元企業向けセミナー
 - 講演Ⅰ 大学で留学生の教育に携わる講師から、留学生の就職の現状(就職に対する意識調査結果等)と大学の取組みについて講演
 - 講演Ⅱ 留学生の就職支援に携わる企業関係者から、留学生採用の成功・失敗事例、インターンシップの有用性について講演
 - ③企業紹介
地元企業から外国人留学生に対し、1 社 10 分間のミニプレゼンテーション形式で企業紹介を実施。
 - ④模擬面接
地元企業が面接官役となり、留学生が模擬面接を体験。
 - a) 自己 PR と質疑応答、
 - b) 「チームワークにおいて最も大切なものは何か」をテーマにディベートを実施。
 - ⑤交流会
模擬面接を受け、面接官役の地元企業から留学生に対し、面接での受け答えやビジネスマナー、面接に対する心構え等についてフィードバック。



事業実施における工夫点・事業の成果等

○事業実施における工夫点

- ・留学生の地元企業への就職と、地元定着へとつなげていくためには、産・学・官が個々に取り組むのではなく、連携することにより、事業効果を最大化することができると考え、産学官連携の枠組を設立した。
- ・留学生と地元企業のそれぞれの課題、両者の間にあるミスマッチを解消するため、まず、留学生向けセミナーと地元企業向けセミナーを、同時時間帯・別会場で実施し、お互いにそれぞれの課題を認識してもらった上で、「企業紹介」・「模擬面接」・「交流会」に臨んでもらった。
- ・イベントでは、留学生と地元企業が主体的に活動する時間を設け、それぞれの課題を体験的に認識してもらった。

特に、留学生は、地元企業について知る機会や、面接などで必要となるビジネス日本語・ビジネスマナーを実際に使う機会がないため、「企業紹介」や「模擬面接」といった主体的に活動できるメニューを準備することにより、就職活動への意識啓発や福岡での就職意欲の更なる向上へとつなげる仕掛けづくりに心掛けた。

- ・「企業紹介」・「模擬面接」・「交流会」を実施するにあたっては、実際の就職活動を見据えたより実践的な場とするために、事前にイベントに参加する留学生と地元企業にアンケートを実施し、留学生の専攻と就職を希望する業種、地元企業の業種や採用を希望する分野・人材像などを把握に努め、グループ分けを行った。
- ・「交流会」が単なる交流に終始してしまわないような工夫として、直前の「模擬面接」を受けた地元企業からのフィードバックの時間としたことで、留学生から高い評価を受けた。

○事業の成果等

- ・イベント参加者アンケートでは、これまでに留学生の採用実績がない企業を含めたすべての企業から、「今後、留学生を採用する」との回答を得ることができた。
- ・イベントに参加した留学生と地元企業との間で、企業訪問やインターンシップが実現した。



今後の課題・将来に向けての展望等

○今後の課題

- ・イベントには、留学生の定員 100 名に対し 104 名からの申込みがあったが、当日イベントに参加した留学生は 54 名にとどまった。これは、同日、他会場で留学生向けのイベントが複数開催されたことによる参加者の分散が主な理由と考える。今後イベントを開催する際は、他団体によるイベント開催予定等についての十分な事前調査が必要である。
- ・留学生を対象としたイベント開催時には、大学や留学生会を通じたイベント広報と大学の授業がない土日開催等の工夫を行うとともに、今回は、イベント直前の「リマインドメール」を送付するなどの工夫を行ったところであるが、より多くの留学生に参加を促すためには、イベントの広報・周知のあり方や等についての更なる研究が必要である。

○将来に向けての展望

- ・福岡市では、本事業以外にも、国家戦略特区を活用した福岡市提案により、平成 28 年 12 月に全国措置として実現した留学生の在留資格の規制緩和など、留学生の地元企業への就職と地元定着に向けた取組みを進めている。
- ・福岡市では、本事業における取組み結果を踏まえ、産学官連携の「グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム」を活用しながら、今後も、留学生の地元企業への就職意欲向上と、地元企業の積極的な留学生採用の更なる促進を図ることで、地元企業で働く日本人社員と外国人社員の双方が主役となった「多文化共生のまちづくり」が推進していくことを期待したい。

事業担当者のふりかえり

イベント参加者アンケートで、これまでに留学生の採用実績がない企業を含めたすべての企業から「今後、留学生を採用する」との回答を得ることができており、「意識啓発」という観点からも成果があったと考えている。

留学生の地元企業への就職と、福岡への定着を促進していくためには、留学生と地元企業で働く日本人社員、更には留学生と地域の日本人住民が互いに理解しあうことが必要であり、今後も、留学生が「住みたい、行きたい、働きたい」と思えるまちの実現に向け取組みを進めていきたい。